

「応援します!! あなたの農業」



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 4 5 号 平成 2 6 年 1 2 月

発行元 福島市中町 8 番 2 号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

若い力で「福島の農」を消費者にアピール！

福島県農業青年クラブ連絡協議会が「第24回ふくしま農見本市」を開催

去る8月31日、福島県農業青年クラブ連絡協議会（谷津佑一会長）は、「ふくしま農見本市」をビックパレットの外会場で開催しました。

今年も『24時間テレビ愛は地球を救う』と同時開催となり、多くの家族連れが会場を訪れる中、クラブ員は農産物や農産加工品の販売を通して「福島の農」をPRし消費者の方々と交流を深めました。

24回目となった今回は7つのクラブから41名が参加し、朝早くから設置したテントの中で、クラブ員が丹精込めて栽培した様々な野菜や花、桃・ブドウなどの果物、米、餅やジュース・焼きアスパラなどの加工品を展示販売しました。



農産物・加工品の展示販売

ディスプレイにはそれぞれ工夫を凝らし、中にはデパートの売り場にそのまま展示しても遜色ないような見事なものも見受けられました。

来場者はクラブ員と言葉を交わし次々に新鮮な農産物などを買い求めていましたが、つきたて餅の販売テントの前にはつき上がりを待つ長い行列ができ、杵つきの体験イベントでは、幼い子供達が杵を持ち、それを写真に収めようとするお母さん方で賑わいました。



つきたて餅を待つ行列

これらの様子はテレビでも放映され県内に広くクラブ員の取り組みを紹介することができ、食と農の絆を広げることができた有意義な一日となりました。

農地中間管理事業に係る 農用地等の借受希望者の公募について

農地中間管理事業の実施に当たり、農業者の皆様はもとより、関係機関・団体の皆様には多大なるご協力をいただきありがとうございます。

この農地中間管理事業はご承知のとおり、本年3月に施行された「農地中間管理事業の推進に関する法律」に基づく事業で、農用地の貸付け希望者から農地中間管理機構(当公社)が農地中間管理権を取得してその利用を集積し、予め公募に応募した者から相手方を選定し、貸付けする事業です。

借受希望者の募集は、事業実施規程に基づき、原則として毎年8月と12月に行うものとしており、今年は追加募集として10月にも行いました。ここでは、8月と10月に行った募集の結果についてお知らせします。

1 農用地等の借受希望者の公募結果について

(1) 募集期間

第1回公募

平成26年 8月1日(金)～ 9月 1日(月)

第2回公募

平成26年10月1日(水)～10月31日(金)

(2) 申し込み方法

借受けを希望する方は、応募する市町村区域を確認のうえエントリーシート(応募用紙)に必要事項を記入し、直接当公社へ郵送等により提出するか、借受けを希望する区域を所管する市町村農政担当課へ提出していただきました。

(3) 公表

公募の結果の詳細は当公社ホームページ(<http://www.fnk.or.jp>)に掲載しました。

第1回公募 平成26年 9月11日(木)から

第2回公募 平成26年11月17日(月)から

(4) 募集市町村等

・第1回公募

県内59市町村のうち、原子力災害で被害を受けた7町村、農業振興地域のない村、今回公募を見送った市を除く、50市町村(161区域)で募集

し、応募のあった市町村は27市町村(89区域)となりました。

・第2回公募

県内59市町村のうち、原子力災害で被害を受けた7町村、農業振興地域のない村を除く、51市町村(175区域)で募集し、応募のあった市町村は24市町村(73区域)となりました。

(5) 応募件数と面積

・第1回公募

551の経営体から677件の応募があり、借受希望面積は3,522haとなりました。

・第2回公募

409の経営体から462件の応募があり、借受希望面積は1,937haとなりました。

この結果1回、2回の合計応募件数は1,139件で借受希望面積は5,459haとなりました。

2 応募内容の公表について

応募の内容は整理した後、当公社ホームページで公表します。

公表する内容

- ・氏名又は名称
- ・当該区域内外の農業者・新規参入者の別
- ・借受けを希望する農地等の種別、面積
- ・借受けた農地に作付けする作物の種別等

3 応募状況

借受を希望する経営体数及び借受希望面積

	公募 区域数	借受を希望する経営体数			借受希望面積(%)		
		内法人	内区 域外	内新規 参入		内法人	
第一回	161	551	55	79	0	3,522	1,242
第二回	175	409	25	66	0	1,937	483

4 今後の公募

第3回の公募は平成26年11月25日(火)～12月25日(木)で実施しますので、経営規模の拡大等のため農地を借受したいとお考え方は今年度最後の公募となりますので、提出期限を守って応募してください。

近内克徳さん(東白川4Hクラブ)が 東北農政局長賞を受賞!

平成26年度「第45回東北農村青年会議山形大会」

東北農業青年クラブ連絡協議会等の主催による『第45回東北農村青年会議山形大会』が、平成26年9月4日(木)～5日(金)の2日間、将棋の駒の里、天童市の「ほほえみの宿 滝の湯」で開催されました。大会は、「東北で農業すっべ! Yes We Can」をテーマに、東北地域の農業青年と関係者1



80名が参加し、プロジェクト・意見発表や交流会、視察研修などを行いました。

意見発表で

近内克徳さん(中央)と応援のクラブ員は、本県代表で東白川4Hクラブの近内克徳さんが発表した「3年目の決意」が、東北農政局長賞(最優秀賞)に輝きました。発表内容は、「大学中退後に自家就農し、相談相手もなく農業を続ける中で気持ちが折れそうになったが、4Hクラブへの入会を契機に、同世代で農業に取り組んでいる仲間から刺激を受け、率先して販促イベントや農業高校での講師体験などに挑戦し、次第に農業にやりがいを感じ意欲も高まった。今後は仲間とともに農業の楽しさや厳しさを共有し、情熱を持って日本人の食を支える米づくりを行いたい。」というものでしたが、素直で力強い発表は高い評価を受けました。来年3月上旬に開催される全国大会での活躍が期待されます。

なお、プロジェクト発表は、D”ATCHの伊藤広明さんが「アスパラガスの安定生産を目指して」を発表しました。惜しくも入賞を逸しましたがデータを更に蓄積すれば、りっぱなプロジェクトになるとおもわれます。

農業青年クラブ員が 農業短期大学校生と交流

平成26年11月17日(月)、県農業短期大学校で福島県農業青年クラブ連絡協議会の執行部員が、就農や営農指導を目指す短大2学年生15名と意見交換を行いました。

始めに、谷津会長が「今日の交流を通して、卒業後の仕事に生かして下さい。県連加入6クラブ以外にも地域には農業青年クラブがあるので、ぜひ加入して下さい。」と、あいさつしました。

次に、各クラブの代表者が2分間スピーチで活動状況を説明しました。クラブ員の経営紹介では、大学校の先輩でもある大橋松太郎さん(伊達市霊山町、いちご農家)が、「夢は、いちごのフランチャイズ経営。夢は口に出して叶えるもの。」と熱く語り、下山田善裕さん(いわき市、花き農家)は、「我が家の経営方針は、労力のかかる最高級の花ではなく、省力化して中級の花を多量販売して収益を上げること。」と紹介しました。9月の東北農村青年会議の意見発表で最優秀賞に輝いた近内克徳さん(棚倉町)は、意見発表を行いました。続いて4班に分かれてのグループトークでは、学生はクラブ員の話に興味深く聞くとともに、自己の夢などを話しました。学生の1人は「卒業後の進路に不安が大きかったが、皆さんの話を聞いて勇気づけられました。」と感想を述べていました。大学校からは、来年以降も継続イベントにしたいとの要望もあり、執行部員たちは初めての取り組みに手応えを感じながら帰路につきました。



交流会で意見交換する参加者



— 利用者の声

豊かな自然を育む、蘇る新農業

南相馬土地改良区
指導官 發田榮一

平成23年に発生した3.11東日本大震災の影響により、現住人口が従前の71,000人から人口63,712人と一部の警戒区域制限等で7,200人余が戻らず、家族の離散や仮設住宅住まいの避難生活が続いています。また、市内における農用地面積8,422haのうち、震災の影響で2,200haの津波被害となり甚大な被害を受けました。

市民帰還の意向調査によると、「世帯主聴取」で平成25年次29.3%が26年次に42.2%と大きく伸びているものの、「個人聴取」では、平成25年次24.1%、平成26年次28.6%と鈍化し、世帯主単位と個人単位では大きな差異があります。

市民による生活環境の変化は、こうした津波被害と原子力発電所の事故が加わったことで、これまでの生活に戻れない苦しみで精神的にも崩れ、持病の悪化や関連死等を含め、市内では1,000人以上の方々逝去されました。一方で、原発事故による放射線の汚染物質さえなかったら、もっと早く自宅に戻られたことや、楽しい家庭も早い時期に復活していたのではと、多くの市民の意見があります。特に、若い世代である40歳未満の急激な減少により、後継者についても大きく農業経営の変革が求められています。

従前の農作物振興は、温暖な気候を利用したの土地利用型農業が盛んで、コメ、麦、大豆に次ぎ、和牛、酪農、豚等の畜産経営が盛んでした。そのほか、露地野菜の大根、キュウリや転作田を利用したジャガイモ、施設園芸の野菜苗、花苗等もありました。



復旧・復興にかかる農用地再整備の推進状況については、事業着工地区が4地区875ha、調査開始地区が2地区80ha、事業推進地区が4地区390haとその計が10地区1,975ha程にも及んでいます。

また、過去に取り組みで完了した地区も多く、そのほとんどの地区が、県農業振興公社の農地保有合理化事業の支援を受けて実施し、その結果、農地集積の要件達成は勿論のこと、担い手への円滑で効率的な集積を図ることができました。

県農業振興公社では、農地保有合理化事業が制度見直しにより廃止され、新たに農地中間管理機構として農地集積の支援を行うことになり「信頼できる農地の中間的受け皿」としてスタートしたと伺っております。

南相馬市では、農地復興と同時に農用地利用の変革の中、その有効利用の継続や農業経営の効率化を求められており、より一層の担い手への農地利用の集積・集約化を進めることが必須であると考えています。

最後に、これまで農林水産業を携わってきた経験を生かし、農家の意向に沿った「豊かなむらづくり」支援と「南相馬土地利用型農業の再興」について、精一杯努めて参りたいと考えております。これまで、市内の復興に際し全国からのご支援・ご援助を賜りまして心から感謝申し上げます。

感動しました。ご冥福をお祈りします。H.T

編集後記 今年の11月「高倉 健」さん、12月には「菅原文太」さんと相次いで昭和のシネマスターが亡くなりました。私の青春時代の役者さんではありませんが、心に残る名作も数多く、一ファンでした。特に高倉健さんの「幸福の黄色いハンカチ」や「鉄道員(ぼっぼや)」、菅原文太さんの「トラック野郎」シリーズは独特な演技力などに

お問い合わせ

あて先 〒960-8681
福島市中町8番2号 福島県自治会館8F
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>